農産ＦＡＸ情報　第２号

令和３年６月１日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

１　秋まき小麦

（１）赤かび病防除

〇赤かび病は開花期間中に最も感染しやすく、降雨等の多湿条件で多発します。

〇穂全体に薬剤を散布するため、開花始期に１回目の防除を行います(図)。この時期に降雨が予測される場合は天候に合わせて防除を行いましょう。

〇ほ場内で、出穂や開花にばらつきがある場合は開花状況に合わせて複数回防除を行い、穂の全体に薬剤が散布されるようにしましょう。

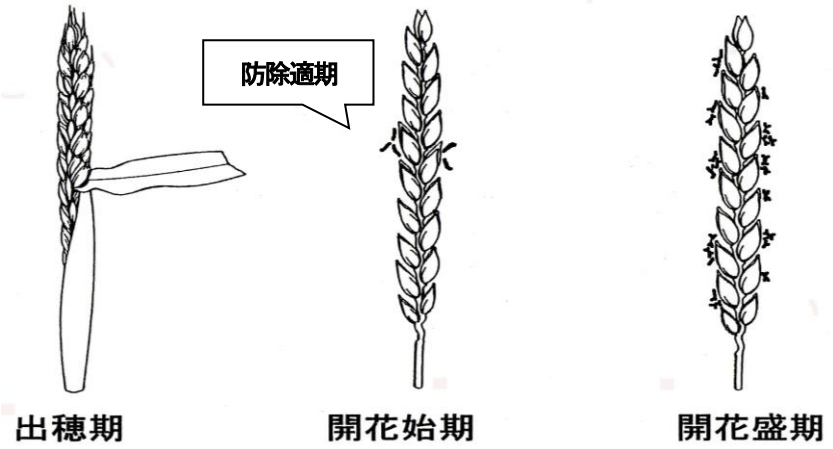

図　赤かび病の防除適期

（２）アブラムシ類の防除

〇出穂後10～20日は寄生密度が高まりやすい時期です。また、この時期に降雨が少ないと多発する傾向になるため、注意しましょう。

表１　アブラムシ類の防除例

害虫名	薬剤名	使用濃度	使用時期	使用回数
アブラムシ類	スミチオン乳剤	1000倍	収穫７日前	１回
	ゲットアウトWDG	4000倍	収穫21日前	３回

２　てんさい

（１）中耕

〇畦間の除草効果の他、通気性を良好にし、地温が高まることが期待できます。茎葉が傷つかないようカルチを調整し、数回実施しましょう。

〇中耕は作物が生育する毎に深くしていきますが、根を傷つけないよう確認しながら実施してください。

〇中耕時、株元に土壌が接触すると根腐病の発生を助長するので注意しましょう。

（2）葉腐病・根腐病防除

○高温多湿条件で発生が助長されます。気象経過に注意し、予防的防除に努めましょう。

○排水不良、連作・短期輪作ほ場では6月中旬頃から早めに防除を行いましょう。株元を中心に薬剤散布をしてください。

○高温時の散布は薬害を助長することがあるため、涼しい時間帯に作業を行いましょう。

2　ばれいしょ

（1）ナストビハムシ・アブラムシ類の防除

【ナストビハムシの成虫】

○防風林、枯葉の下などで越冬するため、ほ場周りの環境に注意し発生状況を確認しましょう。

○発生時期は6月中、下旬ごろが最盛期となるため、ほ場観察に努めましょう。

○食害箇所は生長点付近の若葉の表裏両面で、径1～2㎜の円形の食害痕を残します。

【ナストビハムシの幼虫】

○6月上旬ごろから産卵が始まり、ふ化した幼虫は地中に入ります。

○ストロンや根、イモを食害するため、加工用等では商品化率の低下が懸念されます。

○成虫を防除し、幼虫の密度を抑えましょう。

【アブラムシ類】

○20～25℃の高温、小雨条件で発生が増えるため、気象経過に注視しましょう。

○多発する前の防除が重要です。葉裏を確認し、発生初期に防除を行いましょう。

表2　ナストビハムシ・アブラムシ類の防除例

害虫名	薬剤名	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ナストビハムシ アブラムシ類	ゲットアウトWDG	ﾅｽﾄﾋﾞﾊﾑｼ　3000 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類　2000～3000	収穫7日前	4回
	モスピランSL液剤	ﾅｽﾄﾋﾞﾊﾑｼ　4000 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類　2000～6000	収穫7日前	3回
	アクタラ顆粒水和剤	ﾅｽﾄﾋﾞﾊﾑｼ　2000 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類　3000	収穫14日前	3回

※ナストビハムシ成虫の防除は、発生盛期に7～10日間隔で2回実施することが望ましいです。

農薬は適正に使用し、生産履歴は忘れずに記帳しましょう！

農薬散布時のドリフトに注意！

機械の点検時はエンジンを止めて、農作業事故防止！